

2015.11.22 王であるキリスト

わたしが王だとは、あなたが言っていることです

ヨハネによる福音 18:33b-37

（そのとき、ピラトはイエスに、）「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

説教

教会の暦ではきょうは最期の主日、日曜日です。来週の日曜日から待降節が始まり新しい年となります。クリスマスの飾りつけは来週からするのが普通なので、早とちりしないようにきをつけましょう。

「王であるキリスト」の祝日のみことばをヨハネの福音から聞いていきます。ところで、往年の有名な野球選手に王貞治さんという方がいました。日本人としてはあまりなじみの薄い名字ですが彼は台湾出身の人でした。仮にピラトが王選手に「お前が王なのか」と尋問し、王選手が「わたしが王だとは、あなたが言っていることです」と答えたらどうでしょう。変ですよねえ、見方によってはまったく人を喰った話です。ついピラトに同情したくもなりません。

ジョークはさておき、福音を読んでみましょう。

1) お前がユダヤ人の王なのか

ピラト：お前がユダヤ人の王なのか？

⇒イエスの罪状は王を自称したというものでした。今風にいえば、裁判の罪状認否を最初におこなっているわけです。裁判では訴えられた内容を被告（このばあいはいエス）が認めるか認めないかから始めます。

2) あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。

イエス：それはピラトさん自身の考えなのですか、それともほかの誰かの考えなのですか？

⇒罪状認否の問いに対して問いで答えます、イエスはよく問いに問いで返答しています。

3) わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。

ピラト：わたしはユダヤ人ではないローマ人だ、あなたの同胞達がイエスを訴え、わたしはお役目上それを裁いているだけだ。罪を認めるのか認めないのか？

⇒ピラトに同情的に解釈すれば 35 節はこのような内容として読み取れます。

4) わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。

イエス：わたしはこの世の人ではない。

⇒イエスにとってはローマもイスラエルの関係ない、端的に解釈すればイエスはこの世との無関係を主張し罪状を認めていません。

5) それでは、やはり王なのか

ピラト：ごちゃごちゃいっているが、とにかくお前は王なんだな。

⇒裁判長であるピラトはあくまで裁判上の手続きを進めようと強引というか話をそらすというか、まるでアホな返答をします。逆に言えば、イエスからすれば自分のペースに引き込んだともいえます。

6) わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く

イエス：わたしはあなたが王と呼ぶものではなく、真理を証しする者だ。

⇒真理を証しする者、ユダヤ風に解釈すれば神のことばを預かった預言者だとイエスは返答します。ピラトの尋問（罪状認否）については王ではないと否定し、預言者であると返答したと解釈できます。

さて、2015年の最期の週の福音からいくつかの問いかけがあります。三つにまとめてみました。

1. 王とはなにか？

2. イエスが語る、わたしの国とはなにか？

3. 真理とはなにか？

「終末」という完成をイメージして、神の愛の完成からこの問いに対する答えをみつけましょね、とというのが正統派キリスト教の教えになるのですが、あらかじめ正解があって問いがあるのは学校の試験のようなものです。問題をつくる人がいて問題を解く、試験される、試される人がいるという構図はわたしたちの好みではありません。しかし、教義というものは構造的にそのようなものです。福音書の問いかけをあんちょこから正解を見て解くのではなく、間違っていようと、勘違いしたとしよう、自分自身で解いて自分のことばで答えてみてください。それがイエスの望まれること、イエスの望みだとわたしたちは信じています。

聖書にはこのように書いてあります。イエスはピラトにこう答えました。

あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。
